

「いいこと」が次々起こる幸運な女の練習帳

7 1. “醜いアヒルの子” から抜け出す自己革命術

劣等感を克服するには「こうありたい自分」を鮮明に繰り返し描き続けること

劣等感にさいなまれていた人間は、他人から見ても魅力のない人間に映ります。そして劣等感は一歩を引く上でも大きな障害になるのです。

マーフィー博士は次のように述べています。

「あなたを強くする神の力によって、あなたに不可能なことは一つもありません。神の存在が力、美、愛、不安、安定としてあなたの中に流れ込んでいることを感知しなさい。あなたが調和や健康、平安、喜び、力、幸福などの思考で心を満たすにつれて、神の存在が反応を示し、それらをあなたの人生の中に実現していきます」

ここで言う神とは潜在意識のことです。博士はしばしば潜在意識のことを神という言葉で表現していますが、その絶大な力を考慮するならば、それももったもたない表現です。劣等感を克服するためにしなければならないのは何でしょうか。それは一日数回、あなたが「こうありたい」という自分を繰り返し描き続けることです。それもできるだけ鮮明にです。そうすれば、あなたはしばらくして劣等感が消え去ったことに気がつくでしょう。

その少女は自分にひどい劣等感を抱いていました。美人揃いの姉妹の中で、自分だけが劣っているように感じられたからです。自分は「醜いアヒルの子」だと思っていました。ですから、パーティへ行っても、いつも壁に背中をくっつけ一人ぼつんとしていました。ところがどういう風の吹き回しか、そんな彼女をダンスに誘った青年がいたのです。そのことで彼女は自分に自信を持ちました。

「私だって誘ってくれる人がいるんだ」

それ以降の彼女は、見違えるほど魅力的な女性に変身しました。劣等感が覆い隠していた魅力が一挙に噴き出したのです。彼女は最初に誘ってくれた青年と結婚しました。青年は後にアメリカ合衆国大統領になりました。

彼女はフランクリン・ルーズベルト大統領のよきパートナーのエレノア夫人です。彼女は運がよだけの女性だったのでしょうか。彼女を幸福にしたのは、彼女が自分の劣等感を克服するチャンスを見つけたことです。そのチャンスは青年からもたらされたました。しかし、劣等感を克服したのはほかの誰でもない、彼女自身です。

劣等感を直してくれるのは自分以外ないのです。

マーフィー 運がよくなる魔法の練習帳 マーフィー理論研究会 編著